

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」結果の分析と今後の課題

平成 2 6 年 4 月 2 2 日 (火)、3 年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、本校のこれまでの取組の成果と今後の課題について明らかにしましたので、お知らせいたします。

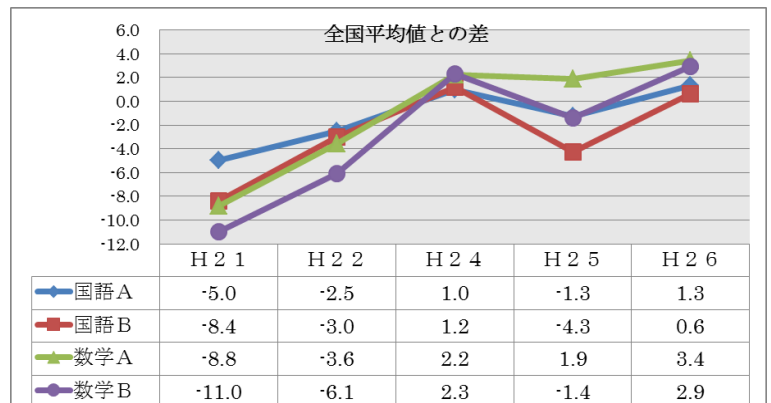
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。詳しいデータにつきましては、本校ホームページに掲載しています。 <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j702574> (横堤中学校で検索)

結果の概要

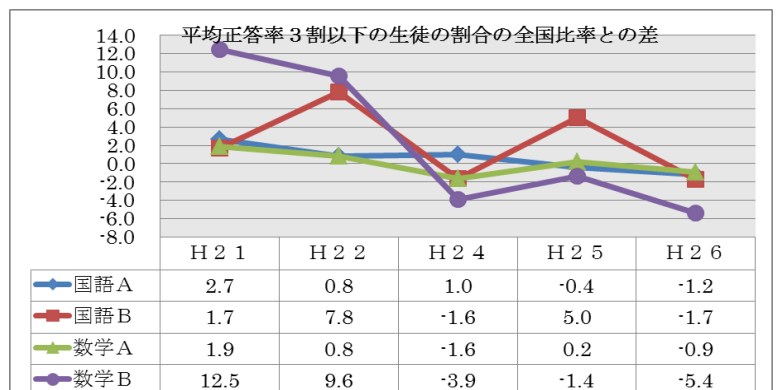
	平均正答率				平均無解答率			
	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
横堤中学校	8 0 . 7	5 1 . 6	7 0 . 8	6 2 . 7	1 . 9	2 . 4	2 . 6	6 . 1
大阪市 (公立)	7 5 . 9	4 6 . 3	6 2 . 5	5 5 . 2	4 . 2	5 . 0	6 . 2	1 4 . 5
全国 (公立)	7 9 . 4	5 1 . 0	6 7 . 4	5 9 . 8	3 . 1	3 . 5	4 . 3	1 0 . 9

< 平均正答率・平均無解答率 >

平均正答率では、国語 A で 1.3 ポイント、国語 B で 0.6 ポイント、数学 A で 3.4 ポイント、数学 B で 2.9 ポイントと全国平均を上回りました。平成 2 1 年度の平均正答率の本校と全国との差を今年度と比較すると、国語 A で 6.3 ポイント、国語 B で 9.0 ポイント、数学 A で 12.2 ポイント、数学 B で 13.9 ポイント高くなり (図上段)、この 5 年間で着実に力をつけてきています。



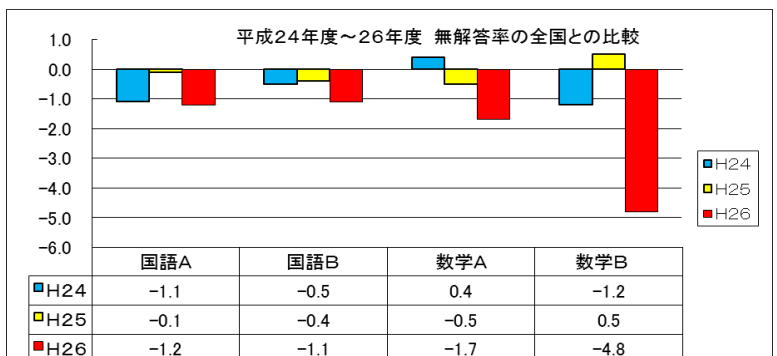
本校では、学力の向上を図るため「運営に関する計画」において、平均正答率 3 割以下の生徒を減らすことを目標としています。今年度は、平均正答率 3 割以下の生徒の割合が、すべてにおいて全国平均を下回り、平成 2 1 年度と比較しても大きく減少しています。(図中段)



平均無解答率においても、国語 A で 1.2 ポイント、国語 B で 1.1 ポイント、数学 A で 1.7 ポイント、数学 B で 4.8 ポイント全国平均を下回り、また、昨年度の本校の無解答率と比較してもすべて減少しており (図下段)、前向きに取り組もうとする生徒の学習意欲が伺われます。

< 生徒質問紙調査 >

「朝食を毎日食べている」と答えた生徒は全国平均を 2.7% 下回り、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた生徒は 2.4% 下回り、生活習慣に関わる項目で課題が見られました。また、携帯電話・スマートフォンの所持率は 92.2% と全国より 15.7% 上回りました。4 時間以上使用する生徒が 19.0% と全国を

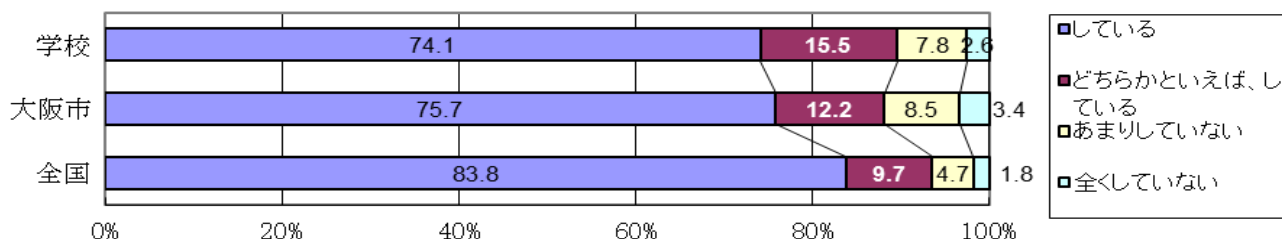


8.0%上回りましたが、所持者の半数近くが1時間以内の使用であり、全国を大きく上回りました。家庭でのルールを守っている生徒が多く、外部から講師を招き、生徒・保護者・教職員と一緒に学ぶ機会を設けたことにより、携帯電話・スマートフォンの利用について意識が高まっていると思われます。

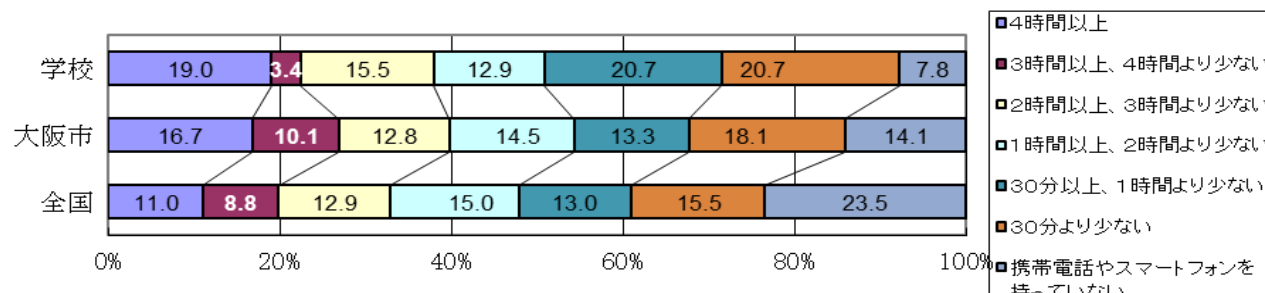
一方、「自分には良いところがある」と答えた生徒は11.4%、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた生徒は7.3%、「学校の規則を守っている」と答えた生徒は13.4%下回り、自尊感情や規範意識に課題が見られるような結果となりました。しかし、これまでの子どもたちの学校生活や各行事の取組をみていると、生徒の判断基準が高く、自分に厳しい評価をしていると思われます。自信の無さが結果として表れていると思われますが、生徒に自信を持たせるような教員の声掛けや学校行事、学級活動等を工夫していきたいと考えています。

課題となる生活習慣（一部抜粋）

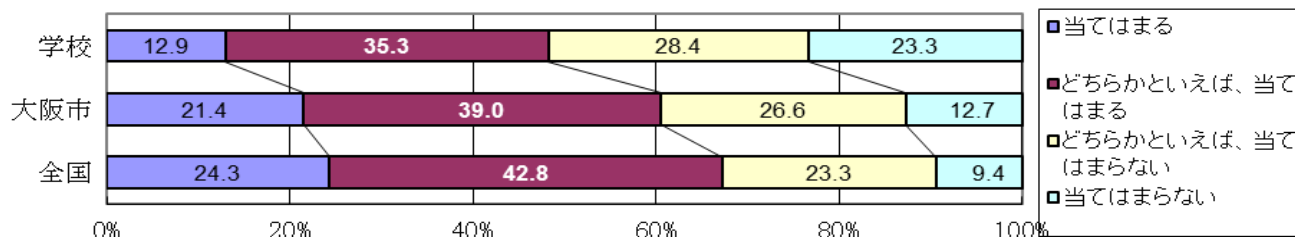
○朝食を毎日食べていますか。



○1日どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



○自分には、よいところがあると思いますか。



これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたこと、若手教員を中心に研究授業等に取り組む、個々の教員の授業力が向上したこと、また、生活指導において教育相談活動を重視し、生徒との個別面談や教員の生徒理解を高める研修、情報交換の機会を多く持つことにより、落ち着いた学習環境づくりに取り組んできたことが、学力向上の成果として表れてきていると考えられます。

しかし、基本的な生活習慣や生徒一人ひとりが未来の自分を見つめ自立していこうとする力においては依然課題があり、学習面においては、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業改善に取り組む必要があります。

今後、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図るとともに、ICTを活用した授業に取り組んでいけるよう研究を進めてまいります。また、子どもたちの自尊感情や規範意識を高めていけるよう「横堤中学校生徒10カ条」の達成を意識した教育活動に継続して取り組んでいきます。